

## 工学システム学類

学生の確保 (人)	年次	定員	志願者	受験者	合格者	入学者		
	1年次	130 (130)	498 (646)	498 (646)	147 (156)	143 (151)		
	編入学・再入学	( )	45 (33)	45 (33)	10 (11)	7 (7)		
学生の進路 (人)	卒業生	就職者	就職者の内訳			研修医	進学者	その他
			企業	教員	公務員			
	146 6 (154)	23 1 (42)	23 0 (41)	0 0 (0)	0 0 (1)	0 0 (0)	119 5 (103)	4 0 (9)

・ ( ) は前年度の数値を、 は外国人留学生を内数で示す。

### 1 工学システム学類の活動

#### 【教育】

工学システム学類は、平成10年度に4主専攻の現体制に改組したが、その移行期間は平成13年度に終わり、平成14年は新しい体制が完成して2年目となった。この間、幸いにも順調に推移した中で、今後の学類運営と教育に関する若干の指摘が構成員からなされた。もとより新工学システム学類は旧工学システム学類と旧構造工学系を主体とする基礎工学類の一部が合体して構成されたのであるが、それらの既に形成された個性は伸ばすべきではあるものの、カリキュラム構成などにおいては、今後もっと融合の方向へ向かう努力をすべきであるとの指摘であった。これは今後の学類運営のガイドラインとすべきことが認識された。

本学類のカリキュラムは発足時に概略が決められ、その後若干の手が加えられながら漸く全体像が完成したところであるが、既に熱心な担当教官によって1・2年次の授業内容が見直されるなど、改善が始まっている。特に、高校レベルから大学レベルへのスムーズな橋渡しをすべく、1年次生対象の「数学序論」が導入され、教官はもとより新入生から大変好評をもって受け入れられて来ている。同趣旨で今年より導入されたのが、「コンピュータ入門」である。両科目ともTAを講義時間内で多用し、懇切なきめ細かい指導を試みていることも特徴的である。

また、学生に対して学習内容の学類や周辺社会への実習作業的貢献に対する主体的取り組みの奨励となることを狙いとした自由科目、「近未来マルチメディアシステム実習」と「技術によるコミュニティーサービス」が新規に開設された。1年次生への学類分野の紹介と学習の動機付けを主な目的としている必修科目「工学システム原論」については、JABEE認定との関わりもあり、技術者倫理などを含む社会と技術の関係を考える後半の内容の一層の改善を図った。

履修申請単位に上限を設けることの試行が始まったが、今後のJABEE基準との関連もあることなので、本学類でも試行的にこれを実施してみた。1年次生のみに対してではあるが年次初めにこれを周知させ、その後3学期開始時に上限を越えそうな学生を呼びだして注意を喚起する機会をもった。結果的には、若干の上限を越える者も出たが、それでもほとんどの学生においては概して上限を意識した履修状況となって現れた。

AC入学者に留年者割合が多いという懸案については、追跡結果などを踏まえつつ今後検討して行くことにしている。

#### 【学生生活】

夏期休業中に1名の学生を海難事故で失うという残念な事態が発生したが、概して平穏な一年であった。

#### (1) 主専攻配属

2年次進学の時に行われる主専攻配属については、原則として各主専攻を同じ定員と定めて行っている。このため、ごく一部の学生とはいえ不本意な主専攻に進学するケースがあり、これについては今後の検討が必要である。

#### (2) クラス担任

本学類では1年次生は6クラス(1クラス当たり24名程度)2年次生以上は主専攻毎の4クラス(1クラス当たり37名程度)でクラスを編成している。幸いクラス担任はいずれもきわめて熱心に学生の身になって指導する他にも、主専攻振り分け、飛び級・大学院推薦入試候補者の選定、卒業研究配属決定等の実質的作業にも当たって学類運営にも貢献しており、この体制は本学類の誇るべきものと考えている。

#### (3) クラス連絡会

平成14年度はクラス連絡会を3回開催してみた。このクラス連絡会には毎回多くの教官が出席している。また、学生から提起される話題も授業内容や授業の進め方に対する注文等の前向きな意見が多く、なごやかかつ有意義な会となっている。教官と学生が講義とは別な機会を通じて、腹蔵無く話し合い、お互いに理解し合うことは教育上もきわめて価値あることと考えている。ただし今年に関しては、3回目の出席者数や出された話題が多くはなかったことから判断して、3回の開催は多すぎるとの印象もあった。

### 2 教員の教育業績評価の状況

本学類では従来から講義を受けた学生全員による授業評価アンケートを実施している。このアンケートの目的は教官自らの授業方法の改善でもあるが、若干マンネリズムに陥っている感があり、JABEEへの対応とも関連しているので授業改善のためのフィードバック法などを含む改善方法について検討している。

### 3 自己評価と課題

#### (1) 教育改革

教育の改善の基本は教官の教育に対する意識である。工学システム学類では、幸い、ほとんどの教官がきわめて教育に熱心であり、前向きに取り組んでいる。しかし一方、社会からの教育の改善に対する要求は大きく、単なる日常の活動だけでは学生や社会からの要求に十分には応えられないことも事実である。このため、とくにJABEEによる審査を想定して、それに対応できる様な教育改革を検討することとし、WGと学類会議で検討した。この結果、原則として平成16年度にJABEEの審査を受ける計画とし、それに耐え得ようファカルティーデベロップメントを中心に積極的に教育改革を進めることを決定した。また、授業参画プロジェクトにも参加して広範な視点からの批判的意見を求め、授業改革への一助とした。

#### (2) カリキュラムの改定

上記に述べたとおり、数学については高校における授業や学習内容とのつながりを考えたカリキュラムの改定を行っている。更に、カリキュラム全体の再検討も来年度以降に実施すべきことが確認された。